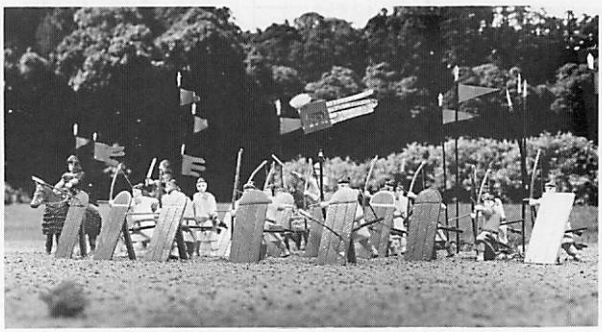
飛鳥資料館の特別展示

飛鳥資料館

特別展示『万葉の衣・食・住』　飛鳥や平城の宮跡で，連日出土する莫大な遺物は，飛鳥・奈良時代の生活を復原する基礎資料である。これを「日本書記」，「万葉集」で補いながら，7・8世紀の衣食住の復原を試みた。住居では伝橘婦人邸宅復原模型，平城京左京三条二坊十五坪の遺族邸宅復原模型，千葉県山田水呑遺跡の復原模型によって，都と東国の家屋を対比した。また，衣服では高松塚古墳壁画人物像と薬師寺吉祥天などにより，飛鳥・天平の男女装束を復原し，人形による衣文で展示した。食物については木簡，動物の骨，木の実，種によってメニューの根拠を示した。食器は飛鳥小墾田宮跡，藤原宮跡，平城宮跡出土の土器群を大ケースいっぱいに納めた。第2展示室では藤原宮窯，鍋，静岡県伊場遺跡出土俎，正倉院庖丁などの資料をもとに万葉の台所を復原した。ここで赤米を蒸したため，館内にほのかな匂いがたちこめ，臨場感があった。とくに京都御所清涼殿に伝わる新年御膳具の銀器一式と台盤，床子によって宮殿の宴席のイメージを作った。会期中，1日200人に限って赤米と蘇の試食会をするなど，新しい試みをした。このテーマについてはデーター不足はいかんともしがたく，細部には学問的な未解決な分野も多かったが，イラストを加えるなどで，これを補った。入場者には大好評で「万葉の世界」に引込む意図は成功した。

特別展示『壬申の乱』　669年，大海人皇子と大友皇子の皇位継承戦争として知られる飛鳥時代最大の内乱をテーマとした。大海人皇子出陣の吉野から，伊勢，鈴鹿を越え，不破関への進路，さらに瀬田唐橋の戦跡に関連する遺物を展示した。勝利を得た大海人皇子は飛鳥浄御原宮で即位し，天武天皇となって川原寺を建立する。仏堂内を荘厳した塼仏，屋根を葺いた川原寺式の複弁蓮華文は，大海人皇子の進軍ルートに建てられた寺々の壁と屋根を飾った。三重県夏見廃寺，天花寺廃寺，縄寺廃寺，岐阜県弥勒寺，厚見廃寺，鍵屋廃寺，席田廃寺，大隆廃寺，滋賀県太廃寺，崇福寺など戦争のもたらした寺々の遺物で壬申乱を検証しようとした。また，飛鳥小墾田兵庫の存在を示唆するものとして「小墾田宮」銘墨書土器，石神遺跡出土武器を展示した。戦乱で活躍した壬申将軍達は死後，厚葬に遇している。その代表として文弥麻呂墓誌を加えた。以上の展示品は壬申乱には，直接結びつかない。そのため，大海人皇子側が勝利を決定づけた箸墓の戦いを30分の1の模型で復原した。戦乱シーンを再現した人形は新しい展示のあり方として，各地の博物館から問合せが寄せられた。



（猪熊兼勝）